



データ推移

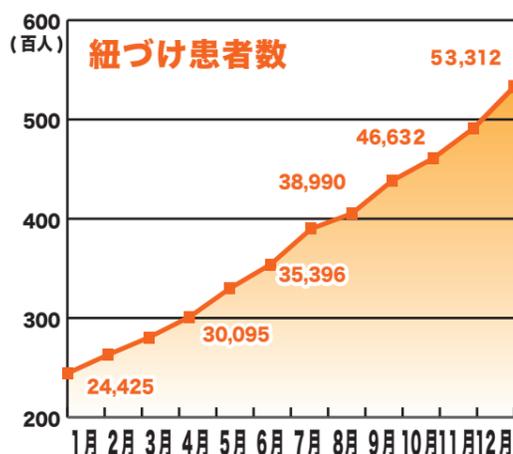
加入 (ID 紐付け) 患者数 5 万人突破!
参加施設数 800 件!



12 月に入り、紐付け患者数 50,000 人を突破しました。



両データ共に、順調な増加傾向にあります。バックアップ患者数は前月比+55,291 人、紐付け患者数前月比+1,550 人。



MMWIN 事務局からのお知らせ

MMWIN 5 周年記念シンポジウム開催のご案内

2018 年 2 月 12 日 (月) に、「MMWIN 5 周年記念シンポジウム」を江陽グランドホテル 4 F 「銀河の間」にて開催いたします。みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会 (MMWIN) 法人設立後、すでに 5 年が経過し、各方面の多大なるご協力を得て、県内 800 を超える施設に参加して頂き、また情報共有同意患者数についても、年度末には 5 万人を大きく超える見込みとなっております。この節目を契機として、これまでの協議会の活動を振り返るとともに、今後の医療福祉情報ネットワークの在り方の展望の共有を目的として、5 周年記念シンポジウムを開催します。

日時	2018 年 2 月 12 日 (月曜日) 15:00 - 16:30 ※終了後 16 時 30 分から祝賀会を予定	内容 ○開会 ○開会の挨拶 嘉数理事長 ○事業報告 ○シンポジウム ○基調講演 ○閉会 基調講演では、 国際医療福祉大学の武藤正樹先生より、 「2025 年へのカウントダウン ～ 同時改定と ICT ～」 のテーマでご講演が予定されています。
場所	江陽グランドホテル 4 F 「銀河の間」 (仙台市青葉区本町 2-3-1)	
主催	一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会	
後援予定	宮城県・厚生労働省 総務省・東北大学病院 宮城県医師会・宮城県歯科医師会・宮城県 薬剤師会・宮城県看護協会 (MMWIN)	



MMWIN

発行：一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

〒980-8633 仙台市青葉区大手町 1-5 宮城県医師会館 6 階 URL: http://mmwin.or.jp
サポートセンター TEL: 022-399-6880 サポートセンター E-mail: support@mmwin.or.jp
事務局 TEL: 022-395-6312 FAX: 022-395-6313 E-mail: office@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。
『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。
※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。

仙台圏 松尾けんこうクリニック

仙台市青葉区高松
院長 松尾 兼幸先生

1. 病診連携について活用事例を教えてください

私は、地域の皆さまに信頼される「かかりつけ医」を目指して、幅広い患者さんと関わってきました。それぞれの患者さんが抱えている状態や問題は千差万別で、その都度、試行錯誤しながら診察しております。ある時、長年にわたり慢性疾患を持っている患者さんが、外出先で倒れられ、仙台医療センターへ搬送されました。そして、これまで管理していた慢性疾患の関連ではなく、新たに脳神経系の疾患が見つかりました。現在は、MMWIN にて仙台医療センターでの診療の様子を確認しながら従来の慢性疾患の治療にも新たな疾患の影響などを考慮して対応しております。



松尾けんこうクリニック

今まで、あまり連携をしたことない診療科の先生とのやり取りに MMWIN を活用することで、作業時間や通信時間の短縮に加え、さまざまな情報を共有することも可能になると思います。

2. 診療情報システムにコミュニケーション機能が追加される予定です。どんなことに活用できそうですか？



受付の様子

機能によって従来の作業量や時間を削減できると思います。

まず、MMWIN 上での文書連絡ができれば、FAX でやり取りをしている病院地域連携室との間での事務処理、例えば、診察、検査や入院などの予約の手間や時間が削減できるのではないかと思います。次に、チャットなどの機能があれば、調剤薬局とのコミュニケーションに使えます。患者さんによっては、誤薬や服薬状況が心配になるケースがありますので、チャットでリアルタイムにやり取りができれば、電話や FAX より問い合わせやすく、またスタッフの負担も軽減できると思います。

また、掲示板のような機能ができれば、医療関係者同士のコミュニティにも活用できると思います。症例相談や専門領域の情報交換、匿名での診療相談などを、特にセキュリティが担保されている MMWIN 環境では、実現可能なことだと思います。そして、新たに出来たコミュニティでの勉強会やセミナーなどのイベントにも発展するかもしれません。

3. 今後の MMWIN に期待することはどのような事ですか？

先日、東北労災病院より病診連携・病病連携、更には地域包括ケアシステムを促進するために、MMWIN 加入患者数増加に向けた活動を活発化する事のお知らせがありました。当院は、東北労災病院の乳腺外科、皮膚科や内科など多くの診療科との連携の実績があります。今後は、MMWIN を介してよりスムーズで迅速な情報連携をしていけるのではないかと期待しています。

また、これまでは主に情報の閲覧に使用するという受け身の使い方でしたが、コミュニケーション機能が追加されることで、病院、診療所、薬局、介護施設のそれぞれの施設で従事する方々と、連携が取れるようになります。MMWIN を活用している会員の方々は、特に地域貢献意識が高い方が多いと感じています。

今まで連携したことのない施設や医療関係者、同じ専門領域を持つ者同士など、MMWIN を通じて新たな連携やコミュニティが出来ていくことを期待しています。

症例相談や専門領域の情報交換、匿名での診療相談などを、特にセキュリティが担保されている MMWIN 環境では、実現可能なことだと思います。そして、新たに出来たコミュニティでの勉強会やセミナーなどのイベントにも発展するかもしれません。



院長 松尾 兼幸先生

東北労災病院 MMWIN ブース 1,000 名にご加入いただきました

11月に開設しました東北労災病院ブースですが、院内職員の皆さまのご支援もあり開始1か月で早くも1,000名の患者さんにご加入いただいております。加入活動の実施に伴い、近隣施設様からは今後の連携・活用にご期待いただいております。この期待に応えられるよう、各施設様のさらなる利用環境整備、活用促進に努めてまいります。

▶地域医療連携センター主催【ろうさい医イはなし】にて、副院長 徳村弘実先生よりMMWINをご紹介いただいた様子



保険薬局様との連携の推進



MMWINでは、医療機関様間の利活用を進めており、また多くの施設様にご参加をいただいておりますが、保険薬局様につきましても、11月以降、日本調剤株式会社様等宮城県内に多店舗展開するグループ薬局様を始め、更に多くの保険薬局様にご参加いただく事になりました。保険薬局様にMMWINを活用いただく事で、患者様の診療情報を把握した上での処方や、他の保険薬局様の処方情報の把握による成分・薬効の重複確認、作業の効率性向上等、店舗・患者様いづれにとっても更に大きなメリットを享受いただけるものと思料致します。

更なる地域医療連携を進めるためには、医療機関様、介護福祉施設様間だけでなく、保険薬局様との連携も非常に重要であり、必須と考えておりますので、保険薬局様にお役に立てるような取り組みを、引き続き鋭意進めてまいります。地域全体で地域包括ケアシステム構築を進めている取り組みの中で、保険薬局様含め更に利活用を進め、MMWINの利活用が地域全体での地域包括ケアシステムを推進する柱となるように尽力したいと考えております。

以前よりお知らせしておりますが、MMWIN通信を郵送の他に、各施設のMMWIN使用者に直接メールで送付しております。また、ユーザーズミーティング開催のお知らせ等も送付致しますので、貴施設のMMWIN端末使用者の方のメールアドレスを何件でも構いませんので、可能な範囲でお知らせください。

『koho@mmwin.or.jp』まで、施設名と可能であれば担当者様名をご記入の上、ご登録をお願い致します。右記のQRコードより、メールを送付いただくことも可能です。既にご連絡くださった施設様のアドレスは登録しておりますので、直接配信を開始しております。ご登録、誠にありがとうございました。合わせて、ホームページにて、MMWIN通信や、宮城県医師会報掲載ページのバックナンバーを公開しております。是非、ご覧ください。



仙南圏 七ヶ宿国民健康保険診療所

10年後、20年後を見据えて若者にも参加を

今回は七ヶ宿国民健康保険所の診療所の吉野所長、岡事務長にお話を聞きました。現在の活用状況の他に、今後のMMWINに寄せる期待を伺ってまいりました。

現在の活用状況

当院では電子カルテ内、および紙カルテにMMWINに加入されている目印をつけており、必要に応じて参照できる体制が整っています。現状、当院を受診される患者さんからのカード提示はまだまだ少ないため十分な活用には至っていませんが、患者さんが救急で他院に駆け込まれた場合、当院の診療情報を参照してもらえることは大きなメリットと感じています。万が一の時に備え、また、将来に向けて若い方々に加入してもらいたいと思います。



期待・改善点など

画像連携に関して言えば、依頼したCTなどの検査結果はフィルムで受け取っているため、詳細が確認出来づらい場合があります。MMWIN上で受渡ができれば、そのような問題も解消できますし、時間短縮や効率化も期待できます。

また、当院は山形との県境に位置しているため、公立高島病院・公立置賜総合病院など山形県の医療機関との連携も多く県内だけでなく県域を越えた医療連携が実現できれば、活用の幅が広がります。

万が一の事態にも備え、まだ参加されていない患者様はMMWINへの参加を強くお勧めしたいと思います。高齢者の方に限ることなく10年・20年後を見据え、若い方の参加も自分の身を護るためにも必要ではないかと考えてもおります。

編集後記

今回は「だれもがだいすきな水守の郷しちかしゆく」小さい町の小さな診療所の吉野所長、岡事務長にお話をお聞きしました。当日は利活用に向けたポータルサイトの操作説明も行わせていただきました。大変ありがとうございました。

来年度からは【ひがし薬局 七ヶ宿】様も運用を開始されます。連携医療機関もますます増えますのでMMWINがお役に立てるよう努めて参ります。
(井戸・嵐田)